

平成23年7月新潟・福島豪雨災害の記録

国道252号滝スノーシェッド災害復旧工事の概要について

会津若松建設事務所
道路課 副主査 野村千尋

施工場所:大沼郡金山町大字滝沢地内(滝スノーシェッド)

1. 概要

平成23年7月27日から30日にかけて発生した『新潟・福島豪雨』は、福島県会津地方西部を中心に大きな被害をもたらした。降り始めから7月30日12時までの雨量は、要害山(只見町)で711mmに達したのをはじめ、会津地方の各観測所で150mmを超える雨量が観測された。

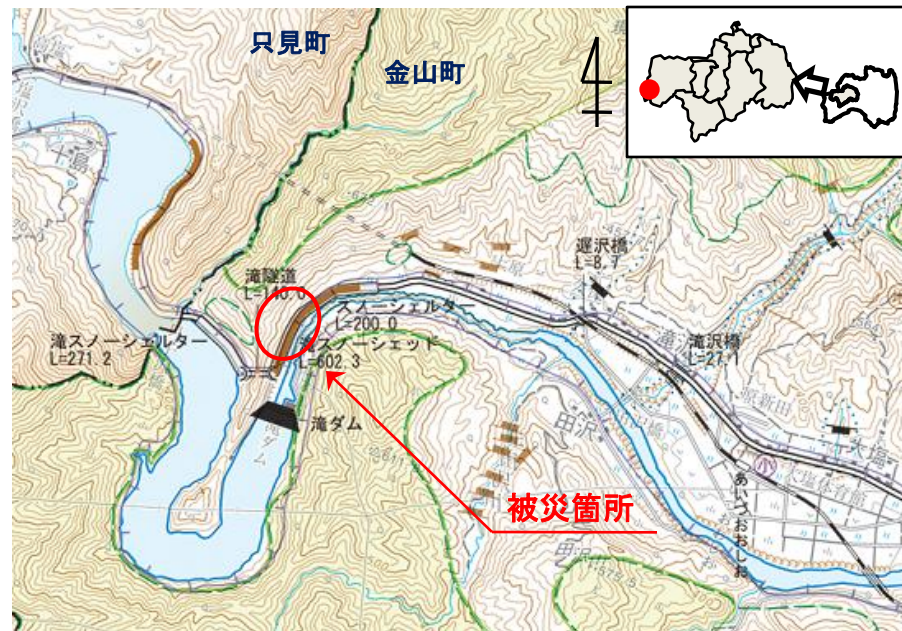
また、時間最大雨量としては、只見観測所(気象庁)において、69.5mm/hの局地的に猛烈な雨が観測された。

2. 経緯・課題

この災害により滝スノーシェッドは、上部工下面まで浸水した。滝ダム直下流の水衝部であったため被害は甚大で、谷側の基礎を含む道路半車線が崩壊した。

これにより、全面通行止となり金山町と只見町を結ぶ国道252号は寸断された。

会津地方西部の各所で道路災害が発生した中、通行止となった国道252号の代替路線として周辺の国道や県道を迂回路することができたが、通常よりも普通車では35km、大型車においては69kmを余計に迂回走行することを余儀なくされ、物流に大きな影響を与えていた。



【被災状況】



3. 復旧内容

【全体事業費】

145百万円

【事業期間】

平成23～24年度

【主な事業内容】

復旧延長 L=204.3m

スノシート工 L=194.9m

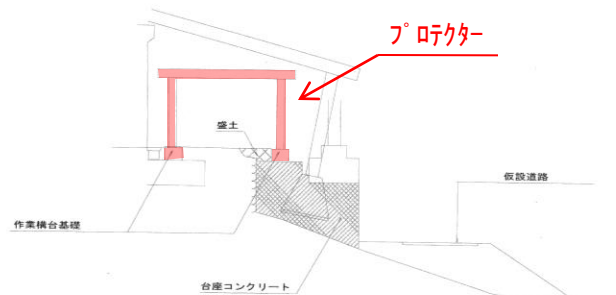
・スノシートジャッキアップ工 L=81.95m

(主桁 N=27箇所)

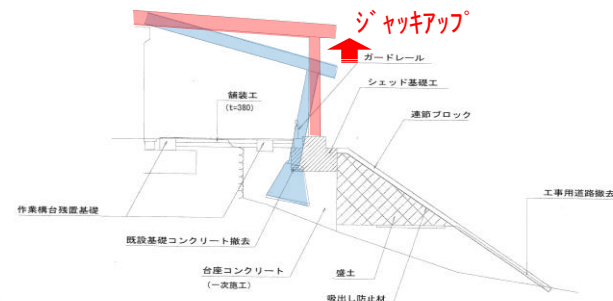
・スノシート撤去再設置 L=22.2m

・沓座補修工 N=34箇所

<1次施工>



<2次施工>



4. 工事状況・創意工夫

『10月中旬に1車線供用、年内に2車線供用』を目標とし、復旧に取り組んだ。

5ヶ月間で測量設計、関係機関協議、災害申請及び2車線供用工事を完了させる必要があることから、短期で施工可能なジャッキアップ工法を選定した。

工程会議を毎日実施することで、遅れが生じた場合は、対応策を即日決定し実行することとした。

施工サイドは、人員・機械・資材確保に困難を極め、近接現場との各種調整も重なったことから、厳しい工程だったが、NETIS登録資材を活用するなど工程短縮に努めた。

安全確保を最優先に無事故で工事を完了させた。

【復旧の足跡】

- ・平成23年 7月29日 全面通行止
- ・平成23年 8月10日 県庁協議
- ・平成23年 8月15日 防災課協議
- ・平成23年 9月 2日 応急本工事契約
- ・平成23年10月17日 1車線供用開始、緊急車両通行可（高さ制限 2.8m以下）
- ・平成23年12月16日 2車線供用開始



【フロテクター上部からのジャッキアップ状況】



至 只見

【1車線供用開始時】

5. おわりに

厳しい施工条件にもかかわらず、降雪期前に無事故で2車線供用を達成することができたことは、多くの方々の力を結集した結果である。

本工事に携わった皆様と現場代理人をはじめ、工事関係者の皆様、測量・設計・地質調査会社の皆様に深く感謝申し上げます。